

平成 30 年度行政評価委員会 議事要旨

会議名	葛飾区行政評価委員会 第1回第一分科会
開催日時	平成 30 年 7 月 12 日 (木) 午前 10 時から正午まで
開催場所	高砂地区センター 2階 大広間
出席者	【委員 7 人】 大石会長、大山委員、西山委員、村上委員、上村委員、篠崎委員、千田委員 【区側 8 人】 事務局 (経営改革担当課長、事務局職員 3 人) 危機管理課 (危機管理課長、管理係長、管理係職員 2 人)

会議概要

1 開会

(事務局より資料の確認)

2 事務事業の概要説明

(危機管理課より「災害対策備蓄品」の概要について説明)

大石会長：備蓄品の入替えは、どのように行っているのか。

危機管理課：水については 5 年間の賞味期間があるが、5 年経ってしまうと皆様にお渡しすることができないので、備蓄品としては 4 年間の使用とし、残りの 1 年間で防災訓練や福祉のイベントなどにおいて区民の皆様にお配りしている。区民の皆様の税金で購入したものであるため、捨ててしまうのではなく、区民の皆様に還元できるように工夫している。

A 委員：例えば 2019 年 2 月が期限のビスケットであれば、前年度から順次、備蓄品としては新しいものに取り替え、防災訓練に出していくということでしょうか。

危機管理課：その通りである。訓練などで配ることで、有効活用させていただいている。

B 委員：定期的に入替えをしている備蓄品は、食品と水か。

危機管理課：主に口に入るものである。

B 委員：水については 5 年に 1 度など、入替え時期には基準があるのか。

危機管理課：食品については 4 年に 1 度入れ替えるが、粉ミルクについては賞味期間が 1 年半程度であるため、残り半年くらいになったら、保育園などにお渡しして使っていただけるよう、各部に再利用の意向調査を実

施している。

大石会長：入替えの管理はどこが行っているのか。

危機管理課：危機管理課で管理している。これから現場を見ていただくが、現場にある備蓄品にも、入替え時期がわかるように記載している。

3 現場視察

- (1) 高砂中学校防災倉庫
- (2) 高砂災害備蓄倉庫

4 事務事業ヒアリング

<毛布、投光器、給水タンクについて>

危機管理課：現場を見ていただいたところで、本日、委員の皆様は特にご意見をいただきたいところについてあらためてお話をさせていただきたいがよろしいか。

大石会長：説明してほしい。

危機管理課：今回、委員の皆様からご意見をいただいて改革をしていきたいと考えているところが2点ある。1点目は毛布である。現在備蓄している毛布は昭和56年のものもあり、いざ災害が起こった時に使用できるか不安があるため取り替える必要があると考えている。新しいタイプの毛布は、小さくパックしているものがある。学校の備蓄倉庫のスペースが限られていること、現在の毛布はかさばり、運ぶのも難しいことを考えると、このような新たな時代のニーズにあったものに取り替えたい。ただし、買替えにはコストがかかってくる。従来の毛布をクリーニングに出すのと、コンパクトな毛布の購入では、コストが倍違う。

C 委員：コンパクトな毛布の材質はどのようなものか。

危機管理課：不織布などである。通常ご家庭にある毛布とは少し違うが、たいへん軽く、温かい。現在の毛布は洗ってもかさばり、使用にも不安があるため、コンパクトなものを入れたいというのが1点である。

2点目は、LEDの投光器である。現在備蓄倉庫に備えているハロゲンタイプのは、非常に熱く、やけどの危険性がある。ワット数についても、ハロゲンはLEDの倍である。寿命についても、ハロゲンが1,500時間であるのに対し、LEDは40,000時間である。また、LEDは虫もよらないし、明るさも調整可能である。ただし、価格は3倍以上違う。

以上2点について、学校の備蓄品の改革をしたい。

また、高砂災害備蓄倉庫で見ていただいた大型給水タンクについて、

昔はペットボトルがなかったため大きなタンクに水を入れて給水していたが、衛生上の管理が困難なうえ、貴重な備蓄倉庫のスペースを占めていることから、必要性を含めて皆様にご意見をいただきたい。

危機管理課：学校の備蓄倉庫の備蓄品は、現在はかなり雑然と置いてある状態である。今、倉庫に棚を設置することを進めているが、年3校のペースであり、すべて終わるまでには10年以上かかる見込みである。急ピッチで進められたら、と考えている。

大石会長：別紙4に、お話のあった備蓄品を新しくした場合の金額が書いてあるが、区内何か所に整備が必要になるのか。

危機管理課：区内77か所である。

大石会長：77か所は学校避難所だけで、そのほかに、先ほど見た災害備蓄倉庫もあるということでしょうか。

危機管理課：その通りである。すべて合わせると120か所くらいである。

大石会長：備蓄品を新しくする必要があるのかということや、学校避難所の77か所だけでこれだけの費用がかかるということだが、議会では議論されていないのか。

危機管理課：議会の中でも話が出ている。いざということが起こった時に、区民の皆様にも適切なものを適切な時期にお渡しできるようにということについては、常日頃から区議会議員に言われている。

大石会長：危機管理課としてはどのように考えているか。

危機管理課：なぜ今急にやる必要があるのかということや、一度にすべて新しくすることが難しければ、優先順位をつけて計画的に入れていくなどの対応についても、検討する可能性がある。

大石会長：災害対策は、区としても力を入れて取り組んでいるところであると認識している。この辺りについて、我々から提言していけたらよいのではないかと思う。なぜ今急にやるのかということではなく、なぜ今までやらなかったのかというスタンスで行けばよい。

D 委員：予算要求の準備は早めに取りかかった方がよい。応援したい。

A 委員：毛布について、現在の毛布をクリーニングするのではなく、同等品に買い替えるということは考えていないのか。

危機管理課：現在の毛布と同じような毛布に買い替えることは考えていない。

A 委員：現在の毛布についてはクリーニング対応のみ、買い替えるのであればコンパクト毛布にしたいということでしょうか。

危機管理課：その通りである。

B 委員：現在の毛布を処分するとなると、処分費がかかるのではないかと。また、どういう形での処分が考えられるのか。

危機管理課：現在の毛布を廃棄処分するとなると、金額は計算していないが、処

分費がかかる。再利用については、ご意見をいただければ、活用についても考えていきたい。

B 委員：コンパクト毛布は、1回買ったらず替えをしなくて大丈夫なものなのか。耐用年数のようなものがあるのか。

危機管理課：一応、10年が目安である。10年経つと密封状態が弱くなってきて、その時はクリーニングに出し、また密封すれば使うことができる。

B 委員：コンパクト毛布を購入する金額が1枚3,024円で、10年後にクリーニングをしたら1枚1,575円かかり、リパックする経費がさらにかかるということでしょうか。

危機管理課：リパックでは、1,500円もかからないとみている。

C 委員：現在の毛布はおそらく使わないで終わることになるのではないと思う。今、アフリカに毛布を送る活動があり、個人的に出している。そういった事業を利用することも考えたらいいのではないか。

大石会長：備蓄品を順次新しいものに交換していくときの予算は、区は単年度予算なので将来分も計上することは難しいと認識している。毎年、場所を限定して新しいものに変えていくという提言をしてはどうか。

B 委員：給水タンクの廃棄について、飲み水以外に大量の水を必要とするところがあり、このタンクを使うという予定はないのか。

危機管理課：街路樹の水やりなど、活用方法はあるのではないかと考えている。給水タンクは非常に大きく、処分しようとするとな処分費がそれなりにかかってくるので、有効利用ができるのであれば考えたい。

A 委員：環境課で雨水タンク設置の助成金を出している。環境課に相談したら活用方法があるのではないか。給水タンクは、雨水貯水槽として使えないのか。

危機管理課：環境課で設置助成しているものは「ミニダム」といって、コンパクトなものである。ご覧いただいた巨大な給水タンクを個人宅に設置するのは難しいと思う。

大石会長：給水タンクは、現在あるものを使うとしたら、洗わないと使えないということでしょうか。例えば新しいタンクだと、もっと軽いものがあるのか。

危機管理課：飲料水をお渡しするのであれば、タンクからの給水ではなくペットボトルの方がよいと考えている。東京都水道局からポリ袋のようなものももらえる。そういった携帯しやすいものやペットボトルをお渡ししたほうが、安心して飲んでいただけたらと思う。

E 委員：先ほどの給水タンクは、非常に不衛生である。あのタンクを使うというのは実際には無理だと思う。井戸水等の給水手段を確保していると

あるが、こちらの方に力を入れるべきである。井戸水の利用について区から補助金を出すなど、井戸水利用の支援を手厚くした方がよい。

危機管理課：井戸水については、井戸設置に係る補助制度の策定など、普及に向けて検討を進めている。

E 委員：備蓄品を供給する手段について、災害時にはインフラ、ライフラインが寸断されている可能性があるため、備蓄をしても、区民に手渡せないのではないか。初期対応はどのように考えているか教えてほしい。

危機管理課：初期対応については、区職員が備蓄品を配給するなどの対応は難しい。そのため、町会の中に組織を作っていただき、協働で防災訓練を実施している。町会の皆様に学校を使っていただいて備蓄品を配付していただくというのが、今の葛飾区の状況である。

D 委員：避難所運営委員会を作って、年に1回訓練を実施することになっている。区民の皆様には、災害対応のためにもできるだけ町会に参加してほしい。そのことについてもPRしてほしい。

E 委員：災害時の輸送手段の確保について、詳しく教えてほしい。

危機管理課：区では、運送会社やトラック協会など、物流会社と協定を結び、輸送手段の確保に努めている。

E 委員：道路が寸断した場合は、運送会社は機能するのか。

危機管理課：道路が寸断されてしまうと、どこの物流会社であっても機能できない。その場合は、水上ルートの確保やヘリでの輸送も考えている。

E 委員：コストの事業費欄で、通信運搬費が、28年度から29年度にかけて上がっている。これは輸送に関する協定とかかわりがある数字か。

危機管理課：学校備蓄品の入替えで使用した金額である。

<実施内容について>

大石会長：備蓄目標としている46万食の内訳を教えてください。

危機管理課：避難所生活者数の13万630人の3食分と、帰宅困難者70,560人の1食分である。

B 委員：有事の時に、区内にいる人は約13万人と計算しているということか。

危機管理課：東京都が公表している首都直下地震等による東京の被害想定によると、避難生活者数は約13万人である。その方のための備蓄と考えていただければと思う。

大石会長：生活必需品の供給に関する協定を締結しているとあるが、具体的にはどういったところと締結しているのか。

危機管理課：簡易間仕切り（NPO法人ボランティア・アーキテクツ・ネットワーク）や、紙おむつ（東京ダイアバ）、玩具（タカラ・トミー）などについて、

と協定を結び、優先的に入れていただけるようにしている。

大石会長：協定についての一覧表はあるか。

危機管理課：用意する。

E 委員：地域防災計画については、何年かに1回など、見直しはあるのか。

さまざまな反省を活かして逐一変えていってほしい。

危機管理課：地域防災計画については、1年に1回、必ず見直しをしている。

<実績目標について>

大石会長：27年度、28年度、29年度と、充足率が増えていっている原因は何か。

危機管理課：備蓄品の入替えのタイミングで、数字が大きくなっている。

C 委員：備蓄品の入替えについて、先ほど見た備蓄品の箱に賞味期限が表示されていたが、棚に入ってしまうと見えないところに表示されていた。一目見てわかるように表示したほうが、期限が近づいて入替えをするときにもやりやすいのではないか。

危機管理課：工夫する。

大石会長：活動指標の「目標・実績」の備蓄食料の年間買替え数の数字は、何を買い替えた数字か。

危機管理課：ビスケットやアルファ米の買替え数である。

B 委員：目標数の根拠は、買替えのタイミングに至る食数のことでよいか。

また、目標に対する実績というものは、あまり関係ないと考えてよいか。例えば、29年度は、目標食数に実績食数が達していないが、これは目標を達成できていないということではなく、この実績の数量の購入が適正だったということによいか。

危機管理課：その通りである。

<コスト内訳について>

大石会長：消耗品の金額の内訳について説明してほしい。

危機管理課：添付資料の別紙3をご覧ください。こちらが、29年度の消耗品の備蓄食料を買い替えた金額の内訳である。

D 委員：この内訳に出てくるのは、学校避難所の備蓄品だけか。

危機管理課：学校避難所以外の災害備蓄倉庫も含めた備蓄品である。

大石会長：コスト欄の収入がないが、国や都からの交付金はないのか。

危機管理課：国庫・都の交付金については、災害が起きた場合は特別な交付金があることもあるが、平常時の備蓄には出ない。

B 委員：先ほど毛布を処分するときにお金がかかるということだったが、もし毛布を買い替えるとなると、購入するために消耗品費がかさみ、今あ

る毛布の処分費で委託料もかさむということによいか。

危機管理課：そのとおりである。

A 委員：27年度に備品費が多くかかっているが、何年かに1回は多くかかるものなのか。

危機管理課：備品についてはマンホールトイレでかかった。現在、学校に順次マンホールトイレを整備しているが、その年度の整備数によって違ってくる。

大石会長：備品費の内訳も、次回、示してもらえるか。

危機管理課：用意する。

<今後の方向性>

B 委員：荒川が決壊するなどして洪水になった時、備蓄倉庫は大丈夫か。これだけ備蓄品を揃えていてもだめになってしまったりするのか。

危機管理課：地震の場合は備蓄倉庫の場所は1階の方がよいというお話もある。

現状では、学校の備蓄については区民の皆様とお話をしながら置き場所を決めている。今後はできれば2階以上に備蓄品を置くことについて検討している。

D 委員：水害の際は、同じ町の中でも、低いところに水が行く。以前、区に対し、地盤を調査して区民の皆様にご地盤の高低差と避難の仕方を教えてほしいとお願いしたが、その対策についても、今後の検討の中に入れていただきたい。

危機管理課：D委員のおっしゃるとおりである。葛飾区の場合は、大規模災害の場合は広域避難で、千葉の高台や市川の高台に避難することとなっているが、急に他県に避難するのは難しいので、今、区内の公共施設約240か所を洪水緊急避難建物を指定し、なるべく高層階に避難していただけるようにしている。

D 委員：ボートを用意するなどの対応も必要と考える。

大石会長：所管課の見解について、今回出た意見も踏まえて、次回検討していく。この事業が必要な事業であることについては、委員の皆様も異論がないと思うが、どのように改善して、いかにうまくお金を使っていくのかということについて提案できたらよいと考えている。

5 その他

(事務局より事務連絡)

6 閉会